

---

宇ノ鹿 すい

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

### 【コード】

N0952W

### 【作者名】

宇ノ鹿 すい

### 【あらすじ】

M o u t h   p u t t i n g   o f   t h e   e a r t h .

天に居住を構えているであろう神の人。

私はずっと名を絶えず呼び続けているではありませんか。

はりさけそうなのに。このソファはもう埃を被っていますし、金の鶴は色彩を落としてしまってるが為に陳腐な作り物に見えます。生きていたこれを最後に眺めたのはずっと以前のこと、私はずっとここで死んだ鶴と、溶ロケタゼりい状として相對していますのが、かなしいです。

今でも遠く昔のことを思い出します。私がまだ花や香りが漂うゲンセイという所で、性別を女として人間の女の子だった時のことを思い出すのです。本当は思い出したくないんですけど。

おもいだしちゃうんです。かなしいです。鶴さんは死んでいるから、慰めてくれません。だめな鶴ですよ、金の鶴さんは。だからあなたに聞いてもらいたいんです。少しかなしい話なんですけど……いいですか？

本当はあまり話したくないんですけど。思い出したくないんですけど。でも、なんていうのかな……話さなくちゃいけない気がします。だから聞いてくださいお願いします。

……聞いていただけですか？

そうですね。この場所にいてくださるといことは、聞いてくださるんですよ。わざわざ確認されるの、うざったいですよね、ごめんなさい、そして、

ありがとうございます。ぺこり。

ええと、それじゃ早速お話したいと思うんですけど……私あまり人とお話するのは上手じゃなくて、しかも今は溶ロケタゼりい状だから舌とか噛みやすいんですよ。頭が時々、水っぽくなってボーツとしちゃう時もあるんです。だから途中で話が脱線したり、支離滅裂になっちゃったりするかもしれません。その時はごめんなさい。

先に謝っておこうかな。ごめんなさい。ペこり。ペこりペこりペこり。えへへ、たくさん間違っちゃいそうなんで今の内にたくさん謝っておきました。謝謝謝謝謝謝あああごめんなさいもう間違えてしまいました。脳が、脳が水っぽくて駄目なんです。調子が悪いようです。思考が雲が空を拡散するかのように纏まらないし、右眼辺りが蛆虫が沸くかのように沸騰して喚きます。申し訳ございませんぬぬん。ええと、その綿の引き出しに金鎚が入っていますので、それで私私綿私のことを叩いてもらってもよろしんでございましょうか。どうにも舌が回りませんし脳がえんがちよです。躊躇しなくていいんですよ。このままでは夜さえも越えるぐらい長引くかもしれぬ、私のかなしいお話ができなくなっちゃうかもすれないんでしかりや！ああ、ああああ、ごめんなさい。噛み過ぎでしゅね、あああ、ああああ、だめでしゅだめでしゅこれはだめでしゅしゅしゅしゅしゅええと、お願いします早く私をその金鎚で叩いてくだされ！脳味噌辺りをぼかすと一撃殴ってくださいれば大丈夫なのでしゅ。い、急いでください。もう語尾とかかめちやくちやで恥ずかしくて思考も纏まらないから恥ずかしろ。

「もろれふう！」

ありがとうございます。少し強く叩きすぎだったような気もしますが……いいえいいえ、嘘ですごめんなさい、ええとおかげさまで本当に助かったのですありがとうございます。って、あなたに時間を割いてもらうのはこれからでしたよね。私の調子が悪いせいで無駄なお時間を取らせてしまって、本当にごめんなさい。溶口ケタぜりい状の私は、普段は自分で脳味噌を叩くんですけど、今日はあなたがこの場所にいてくれるおかげで、自分で自分を叩くなんて痛々しいことをしないですんだのです。あ、金鎚はその引き出しの中に戻してください。ええ、その血みたいなものは気にしないで下さい。いつものことなんです。

さて、本題に入りますよう！時間泥棒をして申し訳ございませんでした！

ここからは語り部な感じになります。  
昔々ある所にい。

自分を善だと勘違いしている浅はかたる邪悪と、自分が悪だと認識しているにも関わらずそれを改善しようとしないうる邪悪、という二種類の邪悪がいました。

でも勿論、真実はいつも二つです。邪悪が必ずしも悪とは限りませんように、彼らの善悪も間違いなくそうだと言いつつ切れる評価ではありません。つまり、これは私の主張、です。

私はその二つを邪悪だと認識している女の子だったのです。何故邪悪だと認識していたのか。

一言で言うと、嫌いだからです。反吐を頭頂部の天辺から吐き落としてやりたい程度に、嫌悪の情を二つに対して抱いていましたから、邪悪を滅するであろう白光を発動してやりたかった。

ではどのように二つの邪悪が悪だったのか。嘘か本当かはあなたが判断してください。私は嫌悪をそれらに抱いているが故に、その評判を落とす嘘を平気で付くでしょう。私の正義、私の欲望を満たす快楽を、口から紡ぐ虚偽が為してくれますから。

ぜん邪悪は人殺しです。毎日毎日くだらない趣味に心を吸われていて、そしていつも見えない透明なモノと闘っているせいでご機嫌ナナメ。自分の悪態を悪態だと認識せず、正義の鉄槌だと誤認識しておりますが、ぜん邪悪は何故あんなにも自己評価が高く、なおかつ世界に対する認識をあんなにも確かにしているのでしょうか。世界認識が確かだということは成長しない頭のカタブツだということとイコールなのを、ぜん邪悪は知らないで真っ直ぐな瞳。動かない心。信念と呼べるほど柱がしっかり構築されているわけでもなく、ただふわふわと感じるままに発しているに過ぎない心からこぼれる嫌気を解消してくれる言葉が、汚い唇から吐息と混じってゲンセイで五月蠅く響いております。私はだからそれを人殺しだと呼称します。世界を殺すモノだと認識します。

そこからは新たな希が生じない。岩としてそこに腰を下ろしたま



溶溶溶けたんです。

……ちょっと取り乱してしまいました。

もうすぐ終わります。

終わりにしてしましましょう。

憎しみは愛です。このように惑星と惑星が口付けをし合うことで私がどれだけ邪悪を愛し、そのために憎しみというものがいかに必要になるのかということ、証明できるかもしれない。できてどうなる、というわけでもないのですけど、きっと天に住まう神の人も許してくださいましょう。

地球は母なる星と呼ばれることがあるでしょう。

なら父がいるのが自然ではありませんか。

知りませんでした？地球にとって対となる惑星というのは、この宇宙に存しているのです。

その名を”閃球”と言います。初めて聞きましたでしょう。座標 Y F F F R A P I D 3 6 8 9 にひっそりと漂っていたのを発見して自らの名前を隕石の衝突によって忘れてしまったそうなので、私が命名してあげました。我ながら良いネーミングセンスをしていたと自惚れます。閃球ですよ閃球。

私は閃球にデンプを送信することにより磁力も同時に発生させていますが故に、

閃球はもうすぐ地球を迎えにやってきました。そして久しぶりに出会うのだから、挨拶に口付けの一つでも交わすでしょう、きやあつ、恥ずかしい。

ぜん邪悪とあく邪悪が屯する地球の表面から、人々はやがて地球を迎えにきた閃球を見上げるようになります、まるで雲に紛れながらもいつもそこにある月を見上げるように、空に蒼い星を見つけて指を指すでしょう、あれは私たちの住まう星の写し鏡のようだと戸惑うの。

人々は潰れたくない、と焦って別の大陸に逃げていくのだけれど、結局どこに逃げたって地上は続いているんですもの、もがいたって死ぬだけ。津波、噴火、竜巻、ああどんな災害が捲き起こるのでしよう……かなしいことだけど、彼らは閃球が口付けをするその直前に気が付くの。ああ、私達が住んでいた星というのは、こんなにも蒼くて大きいものだっただんだ素晴らしいなあ美しいなあ。恐怖やかなしみは消えないだろうけど、寂寥のような気持ちにも晒されて、彼らはきつと恍惚とした気分に追いやられるに違いないの。それってとても綺麗でかなしくて beautiful!!。そして潰れると同時にその口付けが交わされる瞬間の、生々しい音が地上中に響き渡るの。それが合図となって全てに亀裂が入ってばらばらに砕けていくから、全てが肉体を滅ぼして、組織を崩壊させてしまう。私のこの溶ロケタゼリい状の身体も、その時に弾け飛んで意識が消失するの。それが死ぬってこと、世界が終わるってこと。ああ、楽しみだなあ、まだ夜は明けないし、閃球も夜空には窺えないけれど、やがてきつと彼は空にパツと現れてくれる。その時のみんなの驚き、喜び、それがやがて憎しみ、かなしみ、恐怖に染まって踊り狂って果てていく。

その時まであなたは私のかなしい話を聞いててくれるんだよね？  
こんな身体の私と一緒にいてくれて、ありがとう。

その時がくるまで、ずっと一緒にいてね。お願いだよ。  
じゃあ次は何について話そうかな。休憩したくなったら言ってね。ベッドの一つくらいあるんだから下着になつて、熱帯夜の時をやり過ごしたっていいんだよ。あなたが眠りについたと思わしき刻になれば溶ロケタゼリい状の私は眠っているのを偽装していた身体を、ゆっ、く、り、と起こしあなたに近づいて上から覆い被さるの、躊躇も無しにね。そしてトロケルの。

この身体であなたを招待して快樂を与え続けることは淫らな気をあたり中に散布してくれるんですね。私はあなたに覆いかぶさったままその淫らな気をトロカシ続けますから、あなたは下着の中の

物を剛直させて、下着から突き破らせてくれる程でもいいんですよ？そして私はその淫棒にも快楽を与え続けることによって、結果、あなたが精液をその達するに任せるがままに発射するのを身体に受け止めて熱を感知します。すると白光をそこに見れるの。だから私は昂ぶり白光を身体に広げることでも淫靡な汗を体表から零し、あなたの穴という穴からそれを吞ませることでしょう。でもそれは一瞬のことですぐに暗闇が空から落ちてきて私の精神を押さえつけて鬱屈させるんです。鬱屈を迫るんです。地球にさえ対となる存在がない、閃球という名前まである相手がいっかりと口付けを迫ってやってくるというのに、溶ロケタゼリい状の私には何があるって言うんでしょうか…教えてください…今先ほどの猥褻な言葉の羅列をしたことを謝りますから、どうか、この哀れでかなしい溶ロケタゼリい状の私に教えて…：…かなしいんです、かなしいんです…：…なきたいのに、どこから涙を流せばいいのかわからないんです。目がどこにあるのかわからないのに、あなたを見る事が出来るし、閃球を呼ぶこともできるんです。あなたの対となる地球はここにありますよっていうデンパを送ることも出来てしまうんです。

それがかなしいんです。

わかりますか、この気持ちか？

この身体に邪悪のせいで変えられてしまいましたでしたが為に、世界にある全てを私は”対”として存在しているのだと気が付きました。だってそうでしょう、生き物には雄と雌があるのですよね。でも私はただの溶ロケタゼリい状で、こうして言語を紡ぐことだって出来るのに、どこに自分の口がついているのかもわかりません。ただのぜりいですから。私は一人です。私は孤独です。私はかなしいんです。

だからあなたに、私のかなしい話を、まだまだ聞いてもらいます。

お客様、お帰りになることは許しませんよ。

惑星と惑星が口付けをしあうその時まで、ずっとここにいてください。何回もの昼と夜を繰り返してもここから離れないでください。

もし離れようとするならば、まずは、あなたの足をちぎりとつてしまいます。片足でケンケンで逃げようとするあなたの、もう一本の足も噛み千切って、あなたを地面に倒れさせます。筋肉が断裂されてピンク色の筋と、乳白色のような骨が露出して哀れなあなた、そして血がだらだらと流れているあなたをさらに追い詰めるために、口に私の一部分を突っ込ませて、喋れなくしてやって、呼吸困難に陥って苦しそうにしているその姿に、悪態を何度でもついてあげます。そして疲労しきったあなたをベッドに横たわらせて、シーツをあなたの足から流れる血で真っ赤に染めてから、私の本当の愛という奴を教えてあげます。本物の愛という奴を、徹底的にあなたに刻み込んでから、死ぬまで解放してあげません。わかっていますか。わかっていますよね、言葉、伝わりますよね。

だから逃げないで下さい。私、そんなに荒々しい愛を見せ付けるのは好きじゃなくて、スマートにそれを伝えていきたいんです。真つ当な私の愛をあなたに伝えて、全てを空回りさせたいんです。だって私には対となるものがないんですから、空回りするのは当然ですよ、いくら必死になって伝えても、教えようとしても、この身体には人間としての意識があるだけで、実際はただのぜりい状の異形でしかないのだから。口付けなどもつてのほか。愛を伝えるなど論外。

真つ当な身体あつてこそ、モノとモノは理解し合えるのだと思えませんか？

さあ、まだまだお話は続きますよ。欠伸なんてしないでくださいね。大きく口を開いたせいで見えるその喉手。口に、私のぜりいを突っ込まれたくなければ、欠伸なんてする暇は無いつてわかってもらえるんでしょうかねえ。ああ、なんだか鬱屈した口調になってしまっています。

あ、星がいま動きました。宇宙の隅で動いています。座標YFF FRAPID3689で。

閃球は私のデンプを糧にして、宇宙を旅しているようです。

ああ、ろまんちつくだなあ。ああ、素敵なことだなあ。ああ、対があるというのは良いことだなあ。

さて次は何のお話をしましょうか。かなしいお話だからって、飽きないで下さいね。その無限が訪れる刻まで、しばしの遊戯を楽しみましょう。ああ神の人よ。天に住まう彼の人よ。なんてあなたは皮肉な運命をこの世に紡がせるのでしょうか。惑星と惑星が触れ合うその時に、全ての生命が宇宙に吸い込まれていくなんて、愛を通り越して狂氣的、憎悪に満ちる悪行ではありませんか。ああ神の人はなんて大仰なことを為し、そしてある種、無情でもありません。せめて祈りだけをしてここから立ち去ろうではありませんか、無意味だとしても、せりい状だから手の平を合わせることはできないといえども、自己満足をすることは無意味ではないのですから。

M o u t h   p u t t i n g   o f   t h e   e a r t h .

(後書き)

長編で書きすすめてるものの短編版を投稿してみました。  
(とうかまんま冒頭)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0952w/>

---

2011年11月12日11時34分発行